

軽交通道に適用可能 高耐久の土系舗装開発

大林組ら

大林組と大林道路、化学製品の開発などを手掛ける三光（東京都中央区、高木義幸社長）の3社が高耐久の土系舗装「オーククレール」を開発した。土の含水状態の影響を受けず高い強度を発揮するポリマー混和材を使う。歩道に加え、車両の通行量が限られる軽交通道路にも適用できる。ポリマー混和材は大林組と三光が開発した「レジバインダー」。低粘度で低臭

気のため扱いやすく、ぬれた状態の材料と混合しても常温で硬化する。

一般的な土系舗装では使用する真砂土の含水率が高



景観と環境負荷低減にも貢献

まると強度が低下。車両通行や繰り返しの歩行でも路面が荒れやすくなる。「オーククレール」は含水率の影響を受けずに舗装材の強度を高く保持。歩道に限定されていた土系舗装を住宅地・公園内の軽交通道路にも使えるようになる。

保水性があるため、一般のアスファルト舗装に比べ夏場の路面上昇温度を最大18度も抑制。ヒートアイランド現象を緩和する。

3社は公園や歴史的な街並みの観光地などに適用し、環境に配慮した新たな景観を提供していく考えだ。